

■ 環境負荷低減を支援

- 富津館山道路等の開通により、安房地域内の自動車の走行性が向上し、自動車から排出されるCO₂、NO_x、SPMは15～35%減少
- これらの排出ガスの削減により、地域の環境負荷が低減

環境影響負荷の算定範囲



算出条件：富津館山道路沿線の富津市・鋸南町・南房総市・館山市の県道以上のセンサス対象道路を走行する車両の各排出量を、開通前後の道路ネットワークを踏まえて比較

※1：開通前後の交通量と旅行速度は、1997年と2021年の全国道路・街路交通情勢調査の24時間交通量と混雑時旅行速度を使用

※2：CO₂・NO_x・SPM排出量の原単位は『国土技術政策総合研究所資料第671号 道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠（2010年度版）』より引用

※3：林野庁HPより引用し算出（36～40年生のスギ人工林1haが1年間に吸収する二酸化炭素の量は約8.8トンと推定される）

※4：東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを対象（100ha）

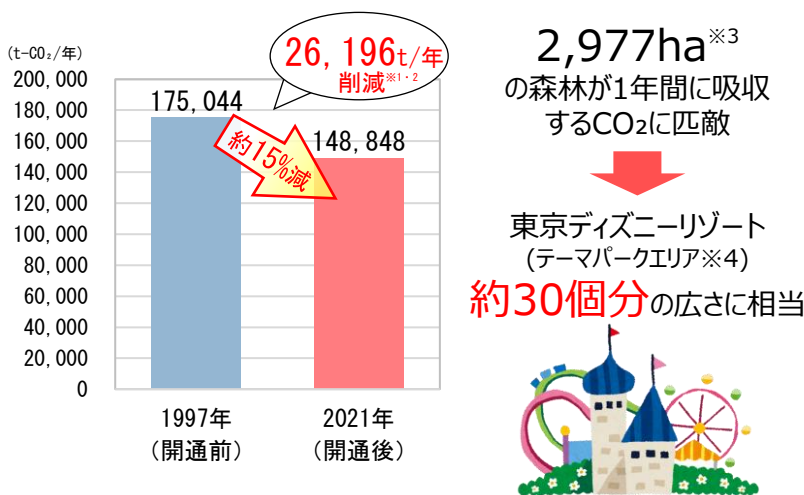
※5：NO_x排出削減量を、大型車1台が40km/hで平均走行距離を走行した場合に排出するNO_x量に換算

※6：平均走行距離（営業用貨物車）：約45km/台（2021年全国道路・街路交通情勢調査）

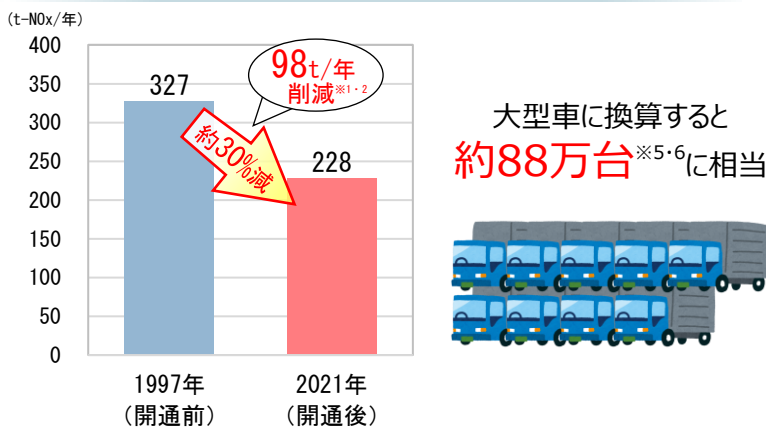
※7：SPM削減量を500mlペットボトル1本分のSPM量（約100g・SPM/本）に換算

【出典】全国道路・街路交通情勢調査（1999年、2021年）、客観的評価指標の定量的評価指標の算出方法（案）（国土交通省）、国土技術政策総合研究所資料第671号「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠（2010年度版）」

CO₂排出量



NO_x排出量



SPM排出量

